

製品名: アネキシン I ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06920**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	38kDa

抗原情報

遺伝子名	ANXA1
別名	Annexin A1 (Annexin I) (Annexin-1) (Calpactin II) (Calpactin-2) (Chromobindin-9) (Lipocortin I) (Phospholipase A2 inhibitory protein) (p35)
遺伝子 ID	301.0
SwissProt ID	P04083
免疫原	アミノ酸範囲: 130~180 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

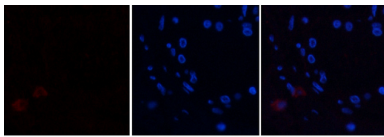
この遺伝子は、リン脂質に結合する膜局在性タンパク質をコードしています。このタンパク質はホスホリパーゼ A2 を阻害し、抗炎症

作用を有します。この遺伝子の機能喪失または発現は、複数の腫瘍で検出されています。[RefSeq 提供、2014年12月],ドメイン：一対のアネキシンリピートが、カルシウムとリン脂質の結合部位を形成する可能性があります。機能：膜融合を促進し、エキソサイトシスに関与するカルシウム/リン脂質結合タンパク質。このタンパク質はホスホリパーゼ A2 の活性を制御します。2~4 個のカルシウムイオンと高い親和性で結合すると考えられます。PTM：タンパク質キナーゼ C、上皮成長因子受容体/キナーゼ、および TRPM7 によってリン酸化されます。リン酸化により阻害活性は消失する。類似性：アネキシンファミリーに属する。類似性：1つのアネキシンリピートを含む。類似性：2つのアネキシンリピートを含む。類似性：4つのアネキシンリピートを含む。細胞内局在：気管内皮細胞の繊毛、核、および基底外側細胞膜に存在（類似性による）。II 型肺胞上皮細胞および肺胞マクロファージの細胞質に存在。サブユニット：胎盤中のホモ二量体（20%）；トランスグルタミル化によって結合している。DYSF と相互作用する。

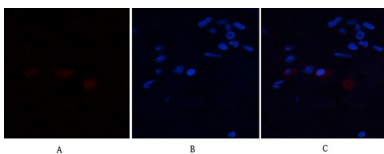
研究分野

シグナル伝達

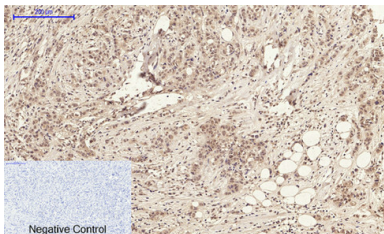
画像データ



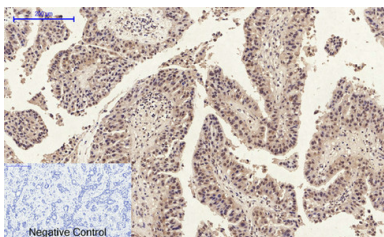
ヒト乳房組織の免疫蛍光染色。1, Annexin I ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50 分）。3, 図 B: DAPI（青）10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト乳房組織の免疫蛍光染色。1, Annexin I ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50 分）。3, 図 B: DAPI（青）10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



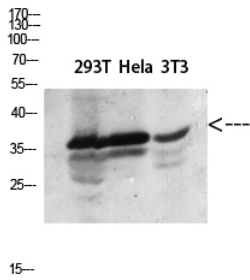
パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。1. アネキシン I ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



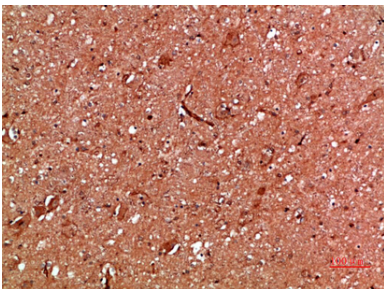
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. アネキシン I ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



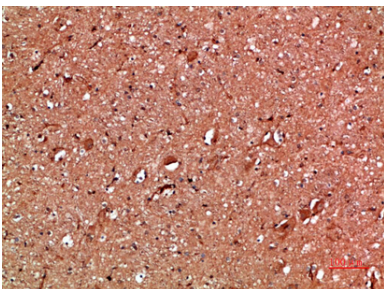
パラフィン包埋ヒト腎臓癌組織の免疫組織化学染色。1. アネキシン I ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈（4°C、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98°C、20 分）を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



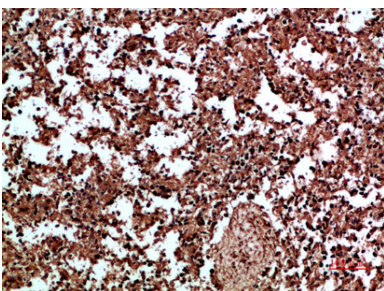
293T Hela ライセートのウェスタンブロット分析、抗体は 2000 倍希釈。二次抗体は 1:20000 倍希釈。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された